

## 令和7年度 高知県アルコール健康障害・依存症対策推進協議会 議事概要

日 時：令和7年8月5日（火曜日） 18：30 ～ 20：30

場 所：高知共済会館3階「桜」

出席者：川田副会長、笠井委員、石田委員、竹井委員、合田委員、井上委員、二神委員、島内委員、下司委員、真船委員、楠瀬委員、山本委員、藤井委員、浅野委員、南委員、秋野氏（大崎委員代理）、豊田委員、山崎会長、倉本委員

事務局 障害保健支援課他

※議事概要中の発言者において委員とあるものについては、委員代理による発言を含む

---

### 議題1 「令和6年度の取り組み状況について」

#### 障害保健支援課より資料1について説明

##### 【意見・質問】

##### （委員）

アルコール依存症の家族へのアンケートで、治療に繋がるのに有効だった行動を聞いたところ、かかりつけ医の紹介が一番効果があったとのことだった。

##### （委員）

かかりつけ医から専門医への連携はすごく難しい。

SBIRTS（Screening、Brief intervention、Referral to Treatmentの略。以下「エスパーツ」という）について、国の基本計画にも載っているが、四国4県では高知県だけが計画に載せていないので、次のステップでは念頭に置いてほしい。

##### （事務局）

来年度、計画の中間見直しを行う際にSBIRTSの記載についても検討する。

##### （委員）

最近、救急病院からの紹介で受診につながったケースが結構ある。本人が非常に危機的な状況にさらされた時に介入すると、専門の医療機関にかかろうかとモチベーションが高まる。一方で、断酒のために入院治療をしようという方は横ばい状態。もう少し内科の先生方と連携がとれたら良い機会が無く、難しいところ。

##### （委員）

保健所が取り組みをしている中で、貧困や困窮問題の背景に依存症があることもあると感じる。最近では自殺に関連して、特に若者の間でオーバードーズ、薬の依存症などの問題があると感じており、学校教育の中でも依存症対策を強化していく必要があると感じる。

##### （委員）

依存症になる前に健康を守るための減酒が重要。SBIRTSの考え方にに基づき健康を守る減酒を進め

るため、ピアサポーター、救急外来、消防、産業保健センター等が参加する準備会を検討中。

**(委員)**

オーバードーズは販売規制というところだけでは防ぎきれない。処方薬や市販薬を買いに来た中で気になる方には積極的に声をかけ、関係者に繋いでいく取組が重要である。

**(委員)**

10代、20代のオーバードーズが本当に最近多いと感じている。処方薬ではなく市販薬を使っていて、やめたくてもやめれない。かなりしんどい思いをして救急から精神科に移ってきている。学校で依存のを知ることがすごく大事と感じる。若者はSNSをかなり使いこなしているので、SNS相談ができれば有効だと思う。

**(委員)**

依存症は、生きている虚しさとか、心の中に穴が開いている感覚だとか、絶望感みたいなものを抱えてそれを埋めようとしてお酒、薬、ギャンブル、物を盗む等が始まっていく。支援現場での取組と、この資料にあるような相談件数や指標、啓発活動や研修会がどう結びついていくのか。どう日々のサポートにこのデータを活かせばいいのかがわからない。資料の内容も大事なことだと思う。虚しさや絶望感、生きていてもしょうがないという気持ちと、全然違う方向に物事が進んでいっているように感じる。これらのことをみんなで考えて、方向性を作っていけたらと思う。

**(委員)**

依存症となった場合に相談は敷居が高いと思う。家族会へ家族が相談に来ることはものすごくいいことだと思う。依存症は、ある一定期間は回復はするが何かのタイミングで繰り返すので、支援者としてそこをどうすれば良いのかという葛藤もある。

## 議題2「メンタルヘルスに関する県民意識調査結果について」

### 障害保健支援課より資料2について説明

**【意見・質問】**

**(委員)**

労務職は具体的にどういった職種を指しているか。

**(事務局)**

労務職は、屋外で働く大工や現場で働く人といったところ。

**(委員)**

①の依存症に対するイメージで、依存症になるのは自業自得だと捉えている方の一定数とはどのくらいか。

**(事務局)**

7.3%。

**(委員)**

依存症の対応方法で特に若い世代や働き盛り世代の中でも商工サービス業、自営や労務職、自由業などといった職種に対して啓発を行うことへの具体的な取組は。自由業の方も入るのか。

**(事務局)**

それぞれの職種にどのようなアプローチが効果的なのか研究しながら進めていきたい。

**(委員)**

サービス業の方や自由業の方に聞いてもらえるようなヒントがあればまた教えていただきたい。

**(委員)**

医療職への啓発も必要と思う。

**議題3 「ギャンブル等依存症対策推進基本計画改正について」**

**障害保健支援課より資料3について説明**

**【意見・質問】**

**(委員)**

オンラインカジノは、海外では合法的なサイトが多数存在しており、最近では日本人を対象とした日本語のサイトも多く乱立している。他方インターネット上では、オンラインカジノはグレーゾーンだとか、日本では取り締まる法律がないと誤った情報が語られておるような状況。

また利用しようと思えば簡単にオンラインカジノが出来るようになっており、気軽さから一般のオンラインゲームでの課金との境界が曖昧になり、無自覚のまま犯罪に手を染めるケースも多い。

高知県での検挙は今のところまだ事例はないが、警察でも違法情報の収集と違法性に関する広報を積極的に進めて取り組んでいる。

**(委員)**

依存症を背景とした多重債務の方に対して、例えば破産手続きをして返済義務がなくなるという状態になった時にそれがむしろ開放感や、再びやりたい気持ちが勝ってしまわないかという不安がある。

本来は免責は原則的にできないが、場合によっては、ギャンブルから決別した方については、今回に限っては負債を無しにする裁量免責という手続きがある。これを受けさせるかどうかを検討する管財人の立場で病院を勧めたりあるいは自助グループを勧めたりしている。

**(委員)**

ギャンブルに限らず何かに依存してしまうという方を支援する中で、依存症以外の背景があることは多い。

表面で見るとオーバードーズしてしまうことだけに目が向きがちだが、現場で患者の対応をして、背景にそうせざるを得ないしんどさがあると感じる。本来であれば味方であるべき家族が本人にとっては加害の対象、しんどくさせてしまう対象となり、何十年も積み重ねた苦しみから逃れるために薬を飲んで忘れたいということが、関わっている若い女性には特に多い。

**(委員)**

ネットでの競艇や競馬やオンラインカジノなど、ギャンブルに関する状況は目まぐるしく変わっている現状があるが、依存症の計画が令和6年から令和11年ととてもサイクルが長いことに違和感を感じる。また、アルコールや薬物、ギャンブルは個々に問題が違うため、もう少し掘り下げた個々の話し合いがあればいいのではないかと思う。

依存になっていく人を救うには、やはり若者への予防教育が大事。直接生徒や学校に動画などを使った啓発や、家族や自助グループも一緒に行って体験談などを話せたらいいのではないかと思う。

今年の啓発週間の時にギャンブル依存症家族の会がウェットティッシュを街の中で配った都道府県が数件あった。来年は、高知県でも県職員、警察、議員にぜひ協力をお願いしたい。

**(委員)**

去年高知競馬では1,000億円程度の売り上げがあり、そのうち97%がインターネットからの売り上げだった。経済的なインパクトがありつつも健全に発展させていくためには、依存症対策をしっかりやらないといけないことを念頭において取組をすすめていきたい。

**(委員)**

社会福祉協議会が依存症の方々と直接接する機会はほぼないが、例えば矯正施設から退所された方や高齢者、知的精神障害がある方の地域定着の支援や、あるいは過去に犯罪を犯された方の家族や本人からの生活相談を受けているケースは結構ある。その背景として依存症など様々な要素があるかもしれないが、社協の方でキャッチができていないところもあるかと思う。今日の話の中で、しっかり関係機関に繋いでいくことが一番大事ではないかと思った。こういうケースはここに相談したら良いという一目でわかるようなものがあれば職員にも周知徹底をしたい。

県民意識調査の結果から、特に高齢者や若い人向けに対して、もしくはその家族の方々に対しての相談窓口の周知は、工夫の余地があると思うため、バージョンアップの際に検討してもらいたい。

**(委員)**

ギャンブル依存症の専門医療機関は今のところ高知では一つ。ギャンブル依存症は潜在的に非常に多いと思うが、新患は月1人程度。

ギャンブルはネット投票がコロナ禍から増えており、周りの人に気づかれないままに借金が増えていく現状がある。依存症の仕組みとして、どん底に落ちてもそこから取り返すという期待感がドーパミンを上げるため、どん底に落ちれば落ちるほど依存状態になってしまう。

借金問題も特に尻拭いは絶対いけない。わかってはいてもやってしまうため、家族会などに相談しながら対応することが非常に重要。病院に来られる方は借金問題を相談場所を知らなかったり、行くのをためらうこともあるため、家族会及び自助グループに繋げることは重要。

**(委員)**

自助グループに対する支援や補助は自助グループの独立性を崩さないことを守りながらやっていただきたい。

節酒を目標として様々な薬を使いながら完全な依存にならないうちに治療しようという動きが出てきており、去年か一昨年に、県の方でそれを行っている先生達の講演があった。これがまた少し新しいことが始まっていると感じ、若手の医者に期待をしている。

終了